



映画監督

ミャンマーのモンテインダンさん

ありのままを撮影して...

高校生の頃から映画を作る仕事をしたいという強い夢を持ち、日本映画学校で学んだモンテインダンさん。卒業制作映画「エイン」と映画への情熱、祖国ミャンマーへの思いを語っていただきました。



7歳で来日されたときの様子は？

以前から父が日本で仕事をしていたために、日本とミャンマーで離れて生活していたので父に会えることが嬉しかったです。

茨城県で日本の公立の小学校に通い始めました。日本語が全く理解できなかったので私ひとりのために特別クラスを作ってもらい勉強しましたが、とても嫌でした。ただ給食が美味しく大好きでした。特に肉じゃがやきんぴらが…。

13歳で子役タレントを始めたきっかけは？

来日当初、友達がすぐにはできなかったのですが、よく図書館に通っていました。そこで日本の映画やテレビを観ることができました。日本語もそれで随分上達したと思います。その流れで映画に興味を持つようになり、自分からオーディションを受けて映画に出演しました。野口健さん(アルピニスト)の高校、大学時代を演じたこともあります。とても楽しかったです。

映画監督になろうと思った動機は？

高校生の頃からシナリオを書いていましたし、祖国ミャンマーを意識し始めていました。自分にできることは何かと考えた時、文化的なこと(映画を作ること)ではないかという思いが強くなったのです。7歳の時から生活している日本は故郷ですが、私にとっての祖国はミャンマーですので、これからも祖国を意識して仕事をしていきたいと思います。

これから撮りたい映画の構想は？

高校生の時にミャンマーのバガン(注1)に行きました。そこで出会ったストリートチルドレンの子ども達に感動したので、その子達のことを

いつか映画にしたいと思っています。「エイン」もそうでしたが、子どもの視点や世界を通して何かメッセージを伝えられないかなと考えております。

出演して欲しい役者さんは？

光石 研さんです。今回の「エイン」にもご好意で引き受けていただきました。

光石さんは大変存在感のある方で、現場でもアドバイスを頂くなど僕らに大変親切にして頂きました。スタッフのモチベーションもあがり、その後の撮影へと繋がったんだと思います。

今まで見て印象に残った映画は？

「ライフ イズ ビューティフル」(注2)です。主人公のような父親になりたいです。ユーモアがあって愛があって(笑)

日本の映画については？

とても繊細で間を大切に作る映画が凄いとします。

「日本映画大学」の開校に寄せる想いは？

率直に嬉しいです。自主性を重んじていろいろな自由に出来る環境にあるため、これからは伝統的な映画手法をやりつつも最新技術を学べる大学になると期待しています。

「日本映画大学」と名乗るくらいですから、日本を代表する大学になってほしいです。前身の映画学校で学べたことを誇りに思います。

「日本映画大学」で学ぶ後輩の方達に向けて何か一言…。

その瞬間に撮れるものに対し爆発させてほしいです。

背伸びしたり、格好つけたりするのではなくありのまま撮ってほしいです。

(注1:ミャンマーの中心部にある仏教遺跡群
注2:ロベルト・ベニー監督のイタリア映画)

目標に向かい夢と希望をいっぱい抱いている青年でした。

そのモンテインダンさんも期待する「日本映画大学」は、日本で初の映画大学としてこの4月からスタートします。

(取材・編集ボランティア
相沢明子・伊東 都)



【映画による国際理解講座】

※エインとはミャンマー語で「家」という意味

当日は、モンテインダン監督の挨拶もあります。



映画「エイン」の上映会を開催します!

NEWS!

外国人の子どもが日本で生活することとは? 一緒に知ることから始めてみませんか?

詳細

◎日 時:2011年3月21日(月・祝) 14:00~16:00

◎場 所:川崎市国際交流センター・レセプションルーム

◎定 員:100人(要申込、先着順)

◎参加費:無料

◎申込先:川崎市国際交流協会 TEL.044-435-7000 FAX.044-435-7010

E-mail kiankawasaki@kian.or.jp

